

平成 30 年度 上武大学 大学院 経営管理研究科 シラバス

講義番号	授業科目名	理論経済学演習 II		担当教員	星野 為國				
	英語授業科目名	a seminar of theoretical economics II		単 位	4	学 期	通年		
対象年次	2 年次	クラス指定		他との関連					
履修条件	特にありません。								
テーマ・副題	財政政策、金融政策の効果を考え、マクロ経済政策に対する評価を行う。								
授業の教育目的・目標	GDPの大きさはどのようにして決定されるか、ケインズモデルの基本的な考え方を理解し、財政政策および金融政策について評価できるようになること。								
授業の理解度の到達目標	授業内容を理解し、受講生各自の研究の助けになることを目標とする。								
授業キーワード	可処分所得、消費性向の長期傾向、投資乗数、完全雇用								
授業の内容	国民所得を中心にして、雇用、物価、景気変動、経済成長について解説する。さらに IS-LM モデルをもって、財政政策と金融政策の効果を説明する。講義の他、修士論文の作成を指導する。								
授業の方法	講義形式で行う。								
授業展開	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 1. 国民所得の循環 2. 国民所得の循環 3. 投資と利潤との関係 4. 投資と利潤との関係 5. 財政支出の乗数効果 6. 財政支出の乗数効果 7. 完全雇用政策 8. 完全雇用政策 9. 新貨幣数量説 10. 新貨幣数量説 11. 貯蓄と投資 12. 貯蓄と投資 13. サミュエルソンの景気理論 14. サミュエルソンの景気理論 15. ハロッドの経済成長理論 </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 16. ハロッドの経済成長理論 17. ドーマーの経済成長理論 18. ドーマーの経済成長理論 19. 新古典派の経済成長理論 20. 新古典派の経済成長理論 21. 技術進歩と経済成長 22. 技術進歩と経済成長 23. 資本蓄積と技術進歩 24. 資本蓄積と技術進歩 25. 産業構造の変化 26. 産業構造の変化 27. 途上国の発展 28. 途上国の発展 29. まとめ 30. まとめ </td> </tr> </table>							1. 国民所得の循環 2. 国民所得の循環 3. 投資と利潤との関係 4. 投資と利潤との関係 5. 財政支出の乗数効果 6. 財政支出の乗数効果 7. 完全雇用政策 8. 完全雇用政策 9. 新貨幣数量説 10. 新貨幣数量説 11. 貯蓄と投資 12. 貯蓄と投資 13. サミュエルソンの景気理論 14. サミュエルソンの景気理論 15. ハロッドの経済成長理論	16. ハロッドの経済成長理論 17. ドーマーの経済成長理論 18. ドーマーの経済成長理論 19. 新古典派の経済成長理論 20. 新古典派の経済成長理論 21. 技術進歩と経済成長 22. 技術進歩と経済成長 23. 資本蓄積と技術進歩 24. 資本蓄積と技術進歩 25. 産業構造の変化 26. 産業構造の変化 27. 途上国の発展 28. 途上国の発展 29. まとめ 30. まとめ
1. 国民所得の循環 2. 国民所得の循環 3. 投資と利潤との関係 4. 投資と利潤との関係 5. 財政支出の乗数効果 6. 財政支出の乗数効果 7. 完全雇用政策 8. 完全雇用政策 9. 新貨幣数量説 10. 新貨幣数量説 11. 貯蓄と投資 12. 貯蓄と投資 13. サミュエルソンの景気理論 14. サミュエルソンの景気理論 15. ハロッドの経済成長理論	16. ハロッドの経済成長理論 17. ドーマーの経済成長理論 18. ドーマーの経済成長理論 19. 新古典派の経済成長理論 20. 新古典派の経済成長理論 21. 技術進歩と経済成長 22. 技術進歩と経済成長 23. 資本蓄積と技術進歩 24. 資本蓄積と技術進歩 25. 産業構造の変化 26. 産業構造の変化 27. 途上国の発展 28. 途上国の発展 29. まとめ 30. まとめ								
成績評価方法	レポートと論文による。								
成績評価基準	100 点～80 点が A 79 点～70 点が B 69 点～60 点が C 59 点以下を D とし、不合格となる。								
テキスト	授業中に指示する。								
参考図書	授業中に随時指示する。								
準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容	修士論文の指導を随時受けるようにすること。授業の前は予習 30 分以上行い、後は 1 時間以上復習すること。指導の教員が指定した文献を良く読むこと。								
学生へのメッセージ	修士論文のテーマに関連する文献を平素より気を使って集め、講義をまじめに受け、高い研究成果を上げて欲しい。								
オフィスアワー	火曜日 2 限研究室 木曜日 3 限大学院 (6 階) 自習室								
連絡先	電話番号	0270-32-1011 (研究室)		メールアドレス	hoshino@jobu.ac.jp				
人数制限	なし								